

3 DCSファイバーの施工方法

「DCSファイバー」カラーページP.82-83

使用材料

- 材料
 - ・DCSファイバー(主剤・硬化剤)
 - ・DCSファイバー専用砂利(20kg)

1㎡当たりの使用量	30mm厚施工:3セット 10mm厚施工:1セット
-----------	------------------------------

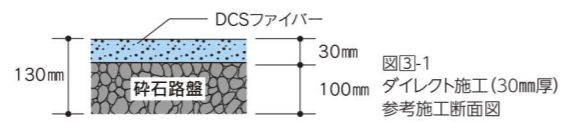
- ・路盤用砕石
(クラッシュランC-30またはRC-30同等品)
- ・珪砂(細粒)…すべり止め用

●道具類

品名	数量	摘要
平型ミキサー	1	平型ミキサーがない場合は、練フネやプラバケツ(80ℓ~140ℓ)
カクハン機(ハンドミキサー)	1	樹脂のカクハンや砂利との混練に使用
スコップ	2	角型 大小
プレートコンパクター	1	60kg程度のもの
コンパネ	大小各2	転圧、養生および通路用
発電機・延長コード	-	必要に応じて準備
レーキ	2	
バケツ	数個	樹脂材のカクハン用
左官ゴテ	2	大(金ゴテ)
エポキシ系シンナー	-	専用エポキシシンナーまたは工業用シンナーで代用可、軽油・ガソリン類は使用不可
サンギ	-	資材(目地棒)20mlに1本を目安に
ゴム手袋	人数分	
養生シート	多め	雨よけ(施工部分)、練り場の養生用
ヘラ	4	皮スキ、ゴムヘラ 各2
その他工具一式	-	カッター、テープ、ノコギリ、金槌、釘、ペンチなど
清掃用具一式	-	ウエス、ほうき、ちりとりなど
ガスバーナー	1	路盤や骨材が濡れている場合や、施工直後に白華が発生した場合に使用
コンクリート用プライマー	-	N1プライマーまたはNSハイフレックス(日本化成)等の市販品 ※従来型施工(10mm厚)の場合に使用

＜施工手順＞

本手順は、ダイレクト施工(砕石路盤に30mm厚のDCSファイバーを施工する工法)について説明したものです。



① 準備

施工前段階での養生を十分に行ってください。(専用樹脂がコンクリートなどに付着すると、取れなくなるおそれがあります。)使用する道具類を準備し、その設置場所を確保してください。また、使用道具が汚れていると、仕上がりに影響します。ご注意ください。

② 路盤

クラッシュラン(C-30またはRC-30同等品)を堅く十分に転圧(100mm厚)してください。

③ 攪拌

主剤は袋の外から手でよく揉みこんでください。(ファイバー繊維が底に沈殿していますので、袋の底から十分に揉んでください。)
※冬季など気温の低いコンディションの場合、温めてからご使用ください。



④ 混合

主剤と硬化剤を同時に残さずバケツに入れ、ハンドミキサーなどでよくかきまぜます。
※硬化剤を入れた時から、硬化が始まっています。できるだけすばやく、施工をしてください。
※主剤と硬化剤はセットの砂利を硬化させるため、最適な比率で配合・封入しています。それぞれ最後までしっかりと攪り出してから薬剤の混合を行ってください。
※主剤と硬化剤は大量に混合すると高熱・発煙が生じる場合があります。2セットまでを目安に良くかき混ぜてください。(オーバーコート剤も同様です。)



⑤ 混練

専用砂利を平型ミキサーか練フネに入れ、そこによく混ぜた専用樹脂を入れ、砂利の色が均一に混ざった状態になるまで、よく混練してください。



⑥ 敷きならし

⑤でよく混ぜた材料を施工現場へ投入し、レーキにて規定の厚み(+5~10mm[※])になるように、敷きならしを行ってください。
※転圧時に厚みが減少することを考慮してください。



⑦ コンパネ

コンパネの片面に、エポキシ系シンナーを均一にウエス等で薄く塗布してください。
⑥での敷きならし作業後すぐに、シンナーを塗布した面を下にしてコンパネをかぶせます。

⑧ 転圧

かぶせたコンパネの上からコンパクターで転圧を行ってください(3周程度)。
※振動加圧を与えることにより、専用樹脂の中に含まれる繊維が、横方向に手をつないだ状態に配列され、強度が増します。



⑨ 仕上げ

コンパネをはがした後、継ぎ目をコテで軽く叩くように修正してください。



⑩ 養生

完全硬化まで、夜露や雨がつかないように、養生をしっかりと行ってください。
※シートをかぶせる場合には、DCSファイバーの舗装面に密着させないようにご注意ください。

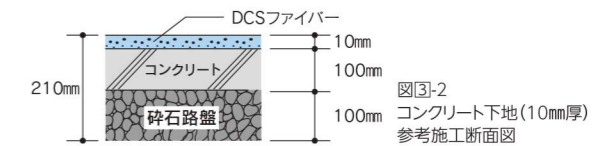
⑪ 完成

⚠️ ご注意

- ・降雨・降雪時や路盤が濡れている場合は、白華の恐れがあるため施工できません。(天候に問題はないが路盤に濡れが残っている場合は、ガスバーナーで強制乾燥させた後、施工は可能です)
- ・専用砂利1袋(20kg)に対し、主剤1袋、硬化剤1袋の全量を使用してください。
- ・硬化剤は冬用と夏用があります。気温が概ね5~25℃の場合は冬用を、25℃を超える場合は夏用をご使用ください。
- ・寒い時期、主剤が固まる場合があります。40℃程度の湯湯やヒーター等でやわらかく戻してからご使用ください。
- ・施工可能な気温、および路盤温度は5~40℃の範囲内となります。
- ・概ね20mlに1ヶ所、目地切りを行ってください。
- ・端部はむき出しにせず、必ず見切り材を付けてください。
- ・傾斜等により、滑ることが予想される場合は、表層が硬化する前に細粒の珪砂を散布し、防滑仕上げとすることを推奨します。
- ・エポキシ樹脂の特性で、紫外線により黄変することがあります。(特に白系・淡灰系はご注意ください)

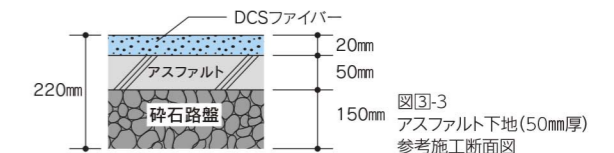
＜コンクリート下地に施工する従来型施工(10mm厚)での注意点＞

- ① 下地路盤:あらかじめ土間コンクリートなどを打設し、十分な養生期間を置いてください。
- ② 下地処理:施工部分の表面を清掃し、乾燥させてください。
N1プライマーまたは市販のコンクリート用プライマーを塗布し、乾燥させてください。
※「③カクハン」からは、ダイレクト施工と同様に施工してください。
- ③ 仕上処理:ダイレクト施工と同様に、必ずコンパネをかぶせて、コンパクターで転圧してください。



＜アスファルト下地に施工する従来型施工(20mm厚)での注意点＞

- ① 下地路盤:あらかじめアスファルトなどを打設し、十分な開放時間を置いてください。
- ② 下地処理:施工部分の表面を清掃し、乾燥させてください。新設の場合はアスファルト用プライマーを、経年により表面油分が抜けた既設の場合はN1プライマーを塗布し、乾燥させてください。
※「③カクハン」からは、ダイレクト施工と同様に施工してください。
- ③ 仕上処理:ダイレクト施工と同様に、必ずコンパネをかぶせて、コンパクターで転圧してください。



【下地が砕石路盤】

- ・路盤のレベル出し、および転圧を確実に行ってください。路盤が軟弱だと、表層面が割れる恐れがあります。

【下地がコンクリート路盤】

- ・コンクリート打設直後は水分が十分に抜けきっておらず、白華の恐れがあります。一週間以上の期間をおき乾燥を確認の上施工してください。

【下地がアスファルト路盤】

- ・アスファルト打設直後はプライマーにより、表面の油分が溶け接着力が期待できない場合があります。新設アスファルトへ施工する場合は、アスファルト用のプライマーをご使用ください。(油分が抜けた既設アスファルトへの施工はN1プライマーで可)